

「特集ワイド」へご意見、ご感想を tyukan@mainichi.co.jp ファクス 03-3212-0279

特集ワイド



安倍晋三首相は9月26日に、衆参両院本会議で行った所信表明演説で、アベノミクスの加速などとともに、憲法改正に積極的な姿勢を改めて示した。連立のパートナーの公明党はどう対応しているのか。首相との個人的なパイプが太いとされる太田昭宏衆院議員に、松田喬和・毎日新聞特別顧問が聞いた。【構成・井田純、写真・梅村直承】

公明党 太田昭宏 衆院議員

「9条」を堅持し 加憲対象も検討

は公明党も含めた多方面の意見を踏まえたものに仕上がった、と評価しています。公明党と自民党の関係は相当安定し、成熟していきま

ほうがいいのではないかと。その意見は公明党内でも根強いのではないのでしょうか。太田氏 デフレ脱却という最大の課題がありますから、そこは経済を成長させるところまで持っていくかなければならない。アベノミクスのアクセルをしっかり踏んで、戦略的に成長を図っていくかなければなりません。

一方、政府は労働市場において「同一労働同一賃金」の実現を目指すなど、正規、非正規労働者間の格差を埋める政策を進めています。さらに、所得税改革では労働へのインセンティブ(働

機付け)を高めながら所得控除と税額控除のあり方を再考し、再分配効果の実効性を上げるといった観点からの議論が大事だと考えています。強調したいのは「成長と分配」には「好循環」こそが欠かせないことです。好循環の仕組みは言い換える

ことをずっと目指してきました。一方、公明党は、現行憲法は優れているという認識のもと、憲法の三原則を堅持しつつ、時代の進展とともに変化してきたものに対して、加えるべき条文があれば加えるという加憲の立場です。そして、両党の間では、全文一括で改憲するのではなく、部分改正にしようという暗黙の一致が生まれてきました。10年以

うしても譲れない、ということですか。太田氏 9条1項、2項は堅持する。それはずっと変わっていません。その上で、自衛隊の存在や、国際貢献については加憲の対象とするかどうか、それを今後検討する——という考えです。

「来年1月に解散」という声が永田町内外でクローズアップされてきています。連立パートナーの一人の党幹部としてどう受け止めていますか。太田氏 解散は本当に首相の専権事項。2年前の解散もそうでしたが、首相から相談なんてあるわけがない。この12月で衆院議員の任期は折り返し。残る2年間は必ず選挙がありま

2006年発足の第1次安倍政権では、公明党代表として連立を組みました。当時と比べ、安倍首相はどうか変わりましたか。太田氏 第1次政権時代は閣僚らの失言やスキャンダルが続出し、直面する課題に取り組むだけで精いっぱいでした。けれども今は「未来」を語る政権になっていきます。安倍首相自身も精力的ですし、余裕が感じられます。

——国民が公明党に期待するのは、政権の暴走を止める「ブレーキ役」です。太田氏 安倍首相のことを、右寄りだとかイデオロギーが偏っていると指摘する人がいますが、私はリアリスト(現実主義者)だと思います。例えば、安全保障体制を整備した「平和安全法制」や税制の問題などでは、公明党の主張を率直に申し上げていますが、そこはよく受け止めていただいている。昨夏の戦後70年

談話についても、最終的に

休暇がある、希望がある」という「プラスの3K」と主張していますが、徐々に変わっていく。それによって好循環が生まれると考えます。

上前から続いている濃密な議論の結果です。それからもう一つ。与党で3分の2の国会議員を形成して改憲を目指すのではない。民進党をはじめとする野党との幅広い合意を形成して部分改正を目指すという点でも合意形成がなされていると思います。

——公明党としては、自民党の改憲草案を議論のたたき台にはしないか。太田氏 そうです。憲法の議論は、この国の形をどうするかということ。政治家、各政党が、どういう憲法、どういう国をつくっていくのかという重厚な議論を憲法審査会で行うことが重要です。それがまだ始まっていません。

——ずばり聞きますが、戦争放棄などを定めた9条は改正させない、そこはど

——自民党は改憲が党是ですが、公明党は平和の党を党是にし、加憲を主張してきました。憲法観では根拠から違います。憲法に関して、両党は折り合いをつけていけるのですか。太田氏 既に00年から衆参の憲法調査会で議論が行われてきました。成立の経緯から、歴史、文言などについて議論を重ねていき、その結果、国民投票法を成立させました。

基本方針として、自民党は現行憲法を自主憲法に変える、全文一括で改正する

人、教育への投資で「好循環」を

「常在戦場」で解散準備

人、教育への投資で「好循環」を

「常在戦場」で解散準備

人、教育への投資で「好循環」を

「常在戦場」で解散準備